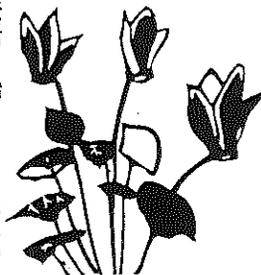


勝林寺寺報

テレビホン法話十年



この勝林寺テレビホン法話を始めたのは、昭和五十八年の元日からでありました。電話番号もそういうことで5800として登録したわけでした。

あれからはや十年が過ぎてしまったことになりました。

そのころ、仏僧や仏婦でマイクロパスをまわしてお誘いしても、遠いお寺の法座にお参りすることの少なわぬ、いわゆる「寝たきり老人」が、あちこちの谷だに村むらに増えてきていました。たいてい昼間は独居老人で、寂しい長い一日を苦しんでおられます。そのおじいちゃんおばあちゃんに、如来さまのおよびごえを伝えて上げたい。それが第一の願いでありました。

今から思えばとんでもない思い上がりであったと思います。

伝えてあげよう伝えてあげようと思気込んでおれたのは、ほんの一年でありました。一月三回の法話も、やがて種切れになってしまいました。伝えること、教えるタネがなくなってしまう。

お手上げになって、恥ずかしいけれど止めてしまおうかと何度思ったことか。

ところがそのころから、はじめに落ち込んでいた私を、教えたり励ましたり、助けてくださるひとびとが現れて下さいました。

寝床のなかで法話を聞いて下さっていたおばあちゃんから、老人介護の主婦から、また子供会にきてくれていた少女から。その他いろいろなご縁のひとびとから、それぞれの日暮のなかでのお念仏のおわじあいを、私に伝え教えて下さいました。

いちばん身近に、私に最後の最後まで連れ添って、教えてくれたのは、いまは亡き坊主でありました。

思ってみればこの十年。このテレビホン法話というもので、教えられ導かれたのは私自身であったと、もったいなく思い返すのです。

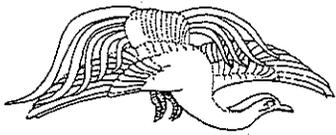
いろいろな人々の、いろんな日暮のなかに、いま現に、ありありと働いて下さる如来さまの本願力を、わたしはこれからも、テレビホンを通して、皆様といっしょに、喜ばせてもらいたいと思います。

祝

成人式 おめでとう



- 兼井 一巨様 (奥栗尾)
- 数森 由佳様 (正法寺)
- 山田 由紀子様 (正法寺)
- 岸下 明子様 (保谷)
- 稲葉 めぐみ様 (出合)
- 渋谷 幹夫大様 (唐川)
- 中嶋 学様 (坪口)
- 村田 恵様 (坪口)
- 浜 理恵恵様 (小田)



「住職からのお祝いのごことば」に添えて『聖典』と藤田徹文著「ここに、に生きる」という小冊子を贈りました。

「ここに生きる」の一節です。

「ここに生きる」といふことは、いま与えられた「ここに生きる」を大事にしていくことなのです。ややもすると私たちは、ここがおもしろくないと

「なんでこんなところに来てしまったのか、あっちへいってたらよかったのになあ」と思っています。「ここに生まれたのか、あんなやさしい親のもとに生まれたらよかったのに」とかいつて、「ここに」という場からよそへ逃げがちになります。他の人のいるところをうらやまして、「あそこがいい、こちらがいい」と、よそ見をしがちになるものです。

「隣の花は赤い」とか「隣の飯はうまい」といいますが、隣の家のものはよく見えるものです。そして、いまいる「ここ」をよく見ることができず、よそをながれて「あのようなところならいいのに」「あんな親のもとに生まれればよかったのに」「あんなお金持ちの家に生まれたらよかったのに」ということになりがちです。さらには、「何でこんなところに来てしまったのか」「こんなことなら、きょうは海へいっていった方がよかったなあ」と、気持ち逃げたままです。「ここ」という場所から逃げたら、「私の生きる」ということがどこかへ行ってしまいういようように「今」という時から逃げ出し、「ここ」というところから逃げ出すいきかたを、仏教では「空しく過ぎる」というのです。今、ここから逃げ出したら、時が空しく過ぎていくだけです。

そのような「空しく過ぎる」だけの人生ならば、百年生きても本当に生きたことにはならない、ということとは分かっていただけたらと思います。一日でも本当に充実して、「今、今、今……」と生きたなら、そちらの方がよほど値打ちがあると、先人はいったのです。



平成5年度 代議員会

議案「勝林寺寺報」(臨時号)にて既報

- ①平成四年度回顧
- ②経常会計・基本金会計の決算報告
- ③平成五年度行事・予算計画審議
- ④ア年忌法要執行の件
イ副住職手続きの件
ウ教化センター懇志の件
エ便所移築の件
その他

二月七日(日) 午前九時半より

十二月二十日

奥小谷 蔭山 さだ子様 七四歳

二月のこよみ

- 一日 『勝林寺寺報』発行
- 二日 宗政懇話会
- 三日 本山宗務員研修会
- 四日 仏住役員会
- 五日 蔭山家四九日
- 六日 会計監査
- 七日 代議員員△△△△30
- 八日 中央基推委第二部会
- 十日 中央相談員連絡会・玉日会定例大阪教区門徒推進員のつどい
- 一日 仏住理事△△△△総会
- 二日 谷垣暎子氏宅法事
- 三日 仏住評議員△△△
- 四日 金久繁一氏宅法事
- 五日 涅槃会△△△△
- 六日 十六夜会定例法座
- 七日 兵庫教区門徒総代研修会(瑞正)
- 八日 同
- 二〇日 関川宝男氏宅法事
- 二一日 多田 稔氏宅法事
- 二三日 岐阜教区基推委常任委員会
- 二五日 得度習礼
- 二六日 みのりを聞く会
- 二七日 門徒推進委員養成中央教修
- 二八日 同(二月二日)

仏住理事会・総会

二月十一日(休日)

午前十一時 理事△△△

午後一時 総会△△△

(今年役員改選です。ご出席ください。)



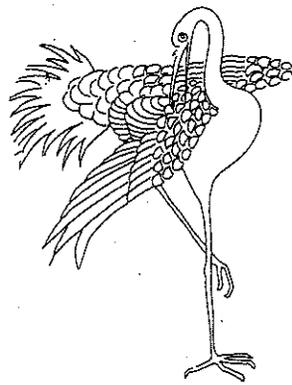


ダーナの日

二月の第二日曜日はダーナの日です。昭和四〇年五月、アメリカのニューオーークに集まった世界各地の仏教婦人の代表たちは、如来さまのおめぐみのなかにもったいないのちを生きさせていただいてる私が、その感謝報謝の気持ちのなかで、私のかいしょいっばいに、社会のために役立つ働きをさせていただきましよう、みんなて申し合わせたのがこの「ダーナの運動」です。

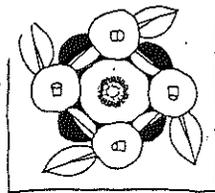
「ダーナ」とは、古いインドのことばです。一応「布施」と訳していますが、「めぐみ・ほどこし」と言う意味の言葉です。ほとけ様になるために、何をしておいても備えなければならぬ徳がこの「ほどこし」のころだといわれています。「如来のこのいのちの中、このほとけの願いの国のなかに生きかえらせなければ、わたくしは親とは呼ばれません」と、如来のいのちの限りを施してくださるなかで、南無阿彌陀仏となつてくださったのが、私たちのほとけさまです。人と生まれ、おみのりに会い、如来のいのちの中に生まれかわらせていただいた私たちです。ところが、この世界の中には、せつかく人と生まれながら、あるいは自然災害で、または政治の誤りや戦争などによって、飢えたり病に犯されたり、むざむざといのちを奪われたりしています。一生

はたらき通した老後を、粗末に扱われている方々も増えていきます。得難いのちです。もったいない生命です。恵みのなかの大切ないのちです。いのちのもったいなさを知らせていただいた私たちは、当然人のいのちを大切にしなければなりません。私のころいっばい、人のいのちのもったいなさを、世界の人々と分かち合います。



ダーナの日に

おすすめやかにいつまでも



- 石坪 てる様 (口栗尾)
- 蔭山 のぶ枝様 (口小谷)
- 沢田 つま様 (奥小谷)
- 渋谷 はつ様 (唐川)
- 生田 あい様 (出合)
- 関岡 みね様 (坪口)
- 中嶋 ぬい様 (坪口)
- 湯口 たけ様 (榎見)
- 湯口 いしみ様 (榎見)
- 成田 ちる様 (和屋)
- 亀井 ちる様 (出石)
- 玉井 房枝様 (出石)
- 古田 ふく様 (出石)
- 谷原 ふじ様 (百合)
- 齊藤 ちる様 (小田)
- 坂本 たか様 (大阪)
- 岩出 むら様 (矢根)

暖冬でけっこうなこと喜んでおりましたのに、さすが節分近く、厳しい寒さと突然の雪が襲って参りました。まずは元気に過ごさせていただいております私たちでさえ、ちごまりふるえいきなずんでおりますのに、まして日々老いを養い、つらい病苦のなかに呻吟なさつておられますあなた様。この寒さにかばかりと、お察し致しお見舞申し上げます。



仏婦からの連絡

ダーナ活動について

如来さまの量り知れない施し(ダーナ布施)のなかで過ごさせていただくこの安らぎ(ビバーラ)を、他の人々にもお分けしましょう。老後を病や孤独のなかで過ごしておられる私たち仏婦の先輩たちを、このダーナの日の行事を機に、折りあるごとにお訪ねさせていただきます。

仏婦評議員会



二月十四日(日) 午前九時半より

追ってご案内しますが評議員の皆様必ずご出席下さい

いたつきだけに精一杯で、まことお恥ずかしい浅ましい毎日でございます。そのなかでふと、おみのりを聞かせていただきますと、恥ずかしく浅ましい生きざまながら、如来さまのお恵みのなかに願われているいのちの貴さに気づかせていただくことでございます。

またそれにつけても、このおみのりに、わたしたちを誘い導いてくださった仏婦の先輩、皆様方のことを思わずにはおれません。そのあなた様が今老いと病の苦しみのなかになさいます。

日頃の恩知らずのご無礼ご無沙汰をおわび致しますとともに、ひとときでもお健やかに、いつまでもおみのりのお導きを下さいますよう、私たち一同、こころより念じ申し上げます。

ダーナの日にあたりご挨拶申し上げます。

平成五年二月

勝林寺仏教婦人会 会長 生田 良子

本願寺新報

本願寺門徒の機関紙です。一人でも多く購読下さい。(申し込みは勝林寺へ)

☆毎月三回発行 ☆購読料 年間三千四百円(一部百円)

落し穂

◆前任職夫妻の十三回忌は坊守の命日の四月三日に勤めます。前坊守の三回忌はやはり命日七月二十四日にお勤めの予定です。◆一月号で予告しました出石組念佛奉仕団は六月十六・十七日に変更しました。例年どおり大谷本願への納骨式もありますのでご遺族はご予定下さい。